



新しい眼で見る中国-その3 “西遊記”

China

中国駐東京観光代表処

日中平和友好条約締結40周年にあたる2018年、中国駐東京観光代表処では「新しい眼で見る中国」と題し、「大自然」、「古文明」、「三国志」、「西遊記」、「癒し」という5つの視点で中国の魅力を紹介いたします。今回は、日本でも人気の「西遊記」をテーマに代表的なスポットをご紹介します。

■ 西遊記の足跡をたどる

かつての都、長安(西安)と西域をつなぐシルクロードは、東西の幾多の人々や文物が往来する物流の大動脈として発展してきました。西遊記は、そのシルクロードを舞台に、唐の高僧玄奘三蔵(三蔵法師)が遠く天竺(インド)へ経典を求めて旅をする物語。中国四大奇書の一つとされ、日本でも古くから映像化されるなど人気の物語です。高速道や高速鉄道が整備された現代のシルクロードでは、西安の兵馬俑坑と秦の始皇帝陵、万里の長城西端の嘉峪関、敦煌の莫高窟と鳴砂山など、さまざまな史跡を巡ることが容易になりました。



陝西省

かつて13の王朝が都を置き、都城としての歴史は通算すると1100年以上に及びます。「長安」(現在の西安)は日本からの遣隋使・遣唐使が目指した都で、平城京(奈良)や平安京(京都)のモデルとなりました。なお長安は、玄奘三蔵(三蔵法師)一向が天竺を目指した旅の出発地点とも言われています。



大雁塔(左)と小雁塔(右)

西安を代表する塔。
玄奘三蔵が天竺から持ち帰ったお経典が保管されている。



張騫記念館

シルクロードの開拓者として知られる張騫に関する資料が展示されている記念館。



兵馬俑坑

3つの坑内から陶俑陶馬 8,000点、青銅器 4万余が見つかるなど、「世界第8の奇跡」と称されるほど歴史価値のある遺跡(陪葬墓)。

甘肅省

漢・唐時代にはすでに東西文化交流と貿易の往来が形成されていました。シルクロード沿いで発見された各時代の文物旧跡、石窟、古代建築は1,000ヵ所以上におよびます。



莫高窟

「千仏洞」とも呼ばれる仏像の石窟。シルクロード沿いで発見された各時代の文物旧跡の中でも随一のもの。



鎮陽城

玄奘三蔵が滞在し、説法を行ったことでも知られる城。



嘉峪関

「万里の長城」の西の起点。

寧夏回族自治区

中国古代文明発祥の地のひとつ。日本のTV番組「西遊記」のロケ地として、撮影にも利用されました。



西夏王陵

中国のピラミッドと言われる。香取慎吾主演の「西遊記」のロケ地。



青銅峡観光区-108塔

チベット仏教の仏塔が108塔並ぶ。

青海省

青藏高原の東北部に位置。長江と黄河はいずれもここに源を発しています。2006年にはチベットへ続く天空列車「青蔵鉄道」が開通しました。



長江

青海省から中国大陸の華中地域を流れ東シナ海へと注ぐアジア最長(6,300km)・世界第3位の大河。旅を続ける玄奘三蔵の前に立ちはだかる「通天河」は、この長江の上流にあたります。



長江源流



タール寺(塔爾寺)

チベット仏教ゲル派(黄教派)の中でも重要な寺院のひとつ。



崑崙山

中国神話上、西方にあるとされた神々の山。西遊記にも登場する西王母とは、西方の崑崙山上に住する女性の尊称。なお現代の「崑崙山」は、6,000m以上の山々が約3,000kmにわたって連なる大山脈をいい、神話と直接の関係はない。(名前のみ同じ)

チベット自治区

インドやネパールなどと接する自治区の首府・ラサは、街そのものがチベット仏教、ラマ教の聖地とされています。なお西遊記は、チベット仏教の要素が盛り込まれ現在に至ると言われています。



ポタラ宮

チベット古典建築の最高峰。敷地面積41万㎡、最も大きな建物は13階建て高さ115m。



青蔵鉄道(青海・チベット鉄道)

青海省の西寧とチベット自治区のラ薩(ラサ)間を結ぶ全長1,956km、標高3,000mを超える高原を走り抜ける世界最高・最長の高原鉄道。

新疆ウイグル自治区

ユーラシア大陸の奥地、中国最大の面積を持つ自治区で、古代シルクロードの要衝として、東西文化の遺産を多く留めています。



火焰山

西遊記で孫悟空が、涼をもたらす芭蕉扇を巡って牛魔王と戦った場所として知られる。赤い泥岩の山肌に深い縦皺が刻まれ、陽が当たると燃えているように見える。



キジル石窟

川沿いの岩壁に彫られた仏教石窟群。建築方法や内部の壁画にペルシアやインドの影響が見られる。